



一般社団法人
エンドオブライフ・ケア協会
End-of-Life Care Association of Japan

那覇市医師会 御中

**エンドオブライフ・ケア
援助者養成基礎講座
沖縄開催 実施報告書
(2019年5月25-26日)**

**2019年6月12日
一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会**

趣旨

□ 本資料では、以下の研修についての実施結果をご報告させていただきます。

研修名称	エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座
受講者	2日間受講者107名、途中退席者14名（アンケート回収枚数 92枚）
日程	2019年5月25日～26日（2日間）
担当講師	小澤 竹俊
場所	那覇市医師会4階ホール

- 本資料は、以下のように構成されております。
 - アンケート集計結果（サマリー）
 - アンケート集計結果（カテゴリー別）
- 研修に対する評価結果ならびに受講者自身の気付き/今後に向けた提言を掲載しております。

アンケート結果 ～全体 （サマリー）

□「講座全体」「今後の仕事への活用」「継続学習」「他者への受講推奨」等についてアンケートを集計いたしました。

講座全体 について

- 研修内容については、多くの方から「有益だった」との評価をいただきました。
- 分かり易い言葉で、演習を多く取り入れた実践的な内容が、実務をイメージしやすくさせ、受講者の有益度や気付きにもつながったと考えられます。

今後の仕事への 活用について

- 今後の仕事に活かすことができるかの問いについて、100%の方から「活かすことができる」との評価をいただきました。
- 高い評価をいただいた理由として、「（看取りへの）苦手意識が払拭された」「ロールプレイが実践的・具体的だった」「（多職種から）意見を聞くことができた」等のコメントが挙げられます。

継続学習 について

- 今回の研修を通して、新たにまたは継続的に学ぶ必要を感じましたか？それはどんな内容でしたか？という問いに対し、「臨床現場では色々なパターンがあり、それに対応できるよう繰り返し練習する必要がある」「情報量が多いので再度復習したい」等のコメントが挙がりました。

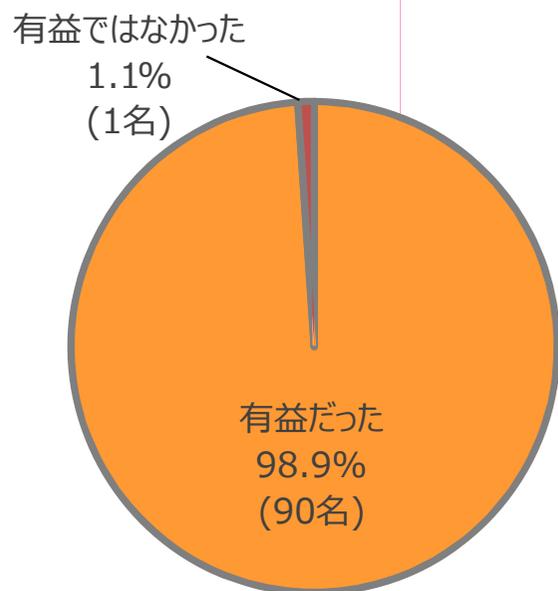
他者への 受講推奨

- 99%の方から「他の人に薦めたい」との声をいただきました。
- 「どのような方に薦めたいか」との問いに対して、医師、病棟師長、介護職等の具体的な職種が挙がる一方、看取りに心残りがある方、職種問わず関わる人全て等のコメントが挙がりました。
- 1名、否定的なご意見がありました。途中、スタッフが気づき、ロールプレイの組み合わせを変えるなどの対応がありました。ロールプレイ自体が苦手だったのではないかと考えられます。

アンケート結果 ～養成講座全体について

□「養成講座全体」について、アンケート数値を集計し、コメントを抜粋いたしました。

講座の有益さについて



n = 92 ※無回答1名

凡例：

有益度

1：有益だった 2：有益ではなかった

有益さに関する代表的なコメント

有益だと思った理由

- 今までの理解は、表面的な、浅い、具体性のないものだったという事に気づいた。
- みとりだけではなく、子供達の支援としても大切なテーマだと感じました。
- 「死にたい」などマイナスの言葉に対する返答や反応が苦手だったから。
- 聴き側の対応でおだやかな気持ちになるか、ならないか、決まるのでとても重要だと思いました。
- 現場で、人生の最終段階を告げられた患者さんと、どのように関わっていったら良いのか迷うことも多かったので、学ぶことができて良かったです。
- 正直「重いテーマ」との意識が強かったので、心が重かったのですが、分かりやすく現場で実践できそうなことがわかりました。
- 他の研究会では学べない内容ばかりでした。日頃から興味のある内容であり、勉強したい内容でした。
- 負の感情を表出されても、どう対応したらいいのかわかった気がする。

講座を通じて学んだこと

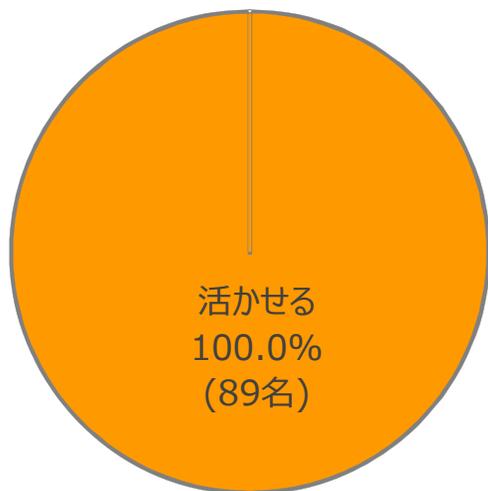
- 今までは苦痛の緩和が大事と思っていましたが、穏やかになるようにと思ったら視点が違ってきました。
- 会話の中での沈黙がダメな事ではなく、1つの方法だと学びました。
- 苦しみやかなしみなどの負の感情に対する関わりが少しずつみえてきた気がします。
- 全ての事に「正しい答え」は1つではないこと、現場に答えがあり、患者さんやその家族から返ってくるのが答えなんだと学びました。
- 対人援助者としての関わり方、聴く事の大切さ、何より援助者自身の支えの大事さの大切さを知る事ができました。
- 地域で仲間づくりをすることの意義について学ぶことができた（どう実践するかは課題であるが）
- 反復する言葉をこれまで迷っていたが、今回の講座を受けて、へたに言葉を変えるよりそのまま反復した方が良いことが患者役をして実感できました。

アンケート結果 ～今後の仕事への活用について

□「今後の仕事への活用」について、アンケート数値を集計し、コメントを抜粋いたしました。

今後の仕事への活用について

今後の仕事への活用に関する代表的なコメント



n = 92 ※活かさないは0%でした
※無回答3名

凡例： 今後の仕事に活かせる

1：活かせる

2：活かさない

どのよう
に活かすか

- ソーシャルワーカーは病院の中で唯一、腰を据えて聴くことが認められているし、時間がとれる。その中で苦しみに接することに常に不安を抱えてきた。でも今は、今すぐ患者さんのところに飛んでいきたい。
- 明日からでも「両親 尊き 保て 役割 ゆだねようかな」を基本に患者や家族と関わっていきたいと思う
- 患者さんに「わかってもらえる人」になるために反復・沈黙・問いかけを活かしていきたい。
- 患者の苦痛を味わって患者に接する思いに寄り添うという点で全ての患者に対応出来る内容でした。
- 私が思っていた「寄り添える援助者」は自己満だったのではないかとも感じ自分自身を振り返る事ができました。
- 対話の立て直しができそうです。疲弊した心が、少し軽くなりました。
- ネガティブな発言をする患者様への苦手意識を減らす！！会話の仕方を変えてみようと思います。
- 日頃から、相談員として、主にご家族様と日々関わり続けています。対応に迷う事が多く、その後私自身が悩む事が多かったのですが、活かして援助を続けていく「自信」になりました。
- まず、聴くことのできる者になりたい。反復、沈黙、できれば問いかけ、苦しみ、支えに気づく視点を持ちたい。言葉が難しくなかつたのでやってみようと思える。
- 看取りだけではなく、クリニックの受付業務にも応用できそうだと思います。
- 利用者さん、家族、友人、子ども誰にでもあてはめて考えていけると思うため、実践していきたいです。
- 利用者さんとの会話で急がず、間を取ってみたいと思います。他にも引き出せることがあるかも…と思えました。

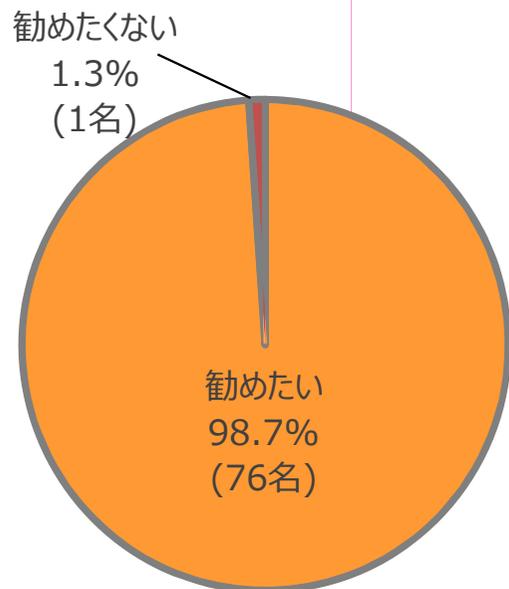
今回の研修を通して、新たにまたは継続的に学ぶ必要を感じましたか？それはどんな内容でしたか？

- 観点がしっかりまだ頭に入っていないので、繰り返し練習していったらより相手に寄り添った看護ができるのではないかと思う。
- 具体的な事例をグループワークで実践的に学ぶ。
- コミュニケーション能力。
- 実際の臨床現場では色々なパターンがあり、それに対応できるようにロールプレイで練習したことを意識して繰り返し練習する必要があると感じました。
- 実践し続ける事と、反復し続ける事が必要だと感じました。
- 情報量が多いので、全てもう一度は復習したいです。
- 事例とロールプレイを通して、アウトプットする事。
- 全体的に内容の濃いものだったので何度も受講し復習することが大切だと思いました。
- 全体的に必要。私の頭には2日間では情報量多かったので、しっかり落とし込む為に。
- 反復・沈黙・問いかけ。
- 利用者それぞれで思いは違う。私の思いが表出する問いかけができるように継続的に学びたい。
- 1日の研修ではなかなか伝えることが難しいので、継続的に学び、現場で生かしていく姿勢。
- 自分や自分の会社だけでなく沖縄全体で考えないと。これからの将来に生かしていきたいのもっと学びたいです。
- 反復し自分のものにできるために。
- すべて。実践しないと忘れてしまいそう。
- グリーフケア。大切な人を失って悲しんでいる人への対応。声かけの仕方。
- 問いかけの時、どんな言葉かけ（相手が大切にしていること）をすると、相手が穏やかになれるのか？気持ちが少しでも上がって来れるよう声かけを考え、引き続き学んでいきたい。
- もう一度流れと演習を！

アンケート結果 ～他者への受講推奨

□「他者への受講推奨」について、アンケート数値を集計いたしました。

他の人に勧めたいか



※無回答15名

n = 92

凡例：

今後、他の人にもこの研修への参加を勧めたいか

1：勧めたい

2：勧めたくない

どのような方に勧めたいか

どのような方に勧めたいか

- Dr.、病棟師長、主任、介護職、ケアマネジャー、相談員、福祉関係者、民生委員、自治体、団体職員、地域包括や地域支援に関わる人、家族、友人
- 看取りに心残りがある方
- 言葉遣いが強い方、相手の話を遮る方
- 職場の接遇が苦手な職員
- 職種問わず関わる人全て
- 緩和ケアに興味をもっている研修医、学生、若手の医療者
- 新人スタッフ。初めて看取りを経験した時にとっても怖がっていた様子があったので
- 共に働く全ての人が同じベクトルで仕事できればハッピー
- 小・中学校・高校・専門学校（職場）の学生・父母・教員 とくに「いのちの授業」として

全体を通じての感想

肯定的なコメント

- 看取りの勉強会に何度も参加してもももんとした気持ちが、少しすっきりしました。
- 学校という実践が決められた中ですぐには導入できないのが現状かなと思います。しかし、患者だけでなく、学生に向けても発信できる内容なので活かすことができれば色々変わるのではないかと思います。
- 患者さんの苦しみを感じて、自分も苦しくなり、泣きそうになったり一緒に泣いたりしてたが、その中でも“光”がある。それを見つけ一緒に生きてきて良かったと思える最期を一緒にむかえたい。そんなケアができる人になりたいと思いました。沖縄まで足を運んでいただきありがとうございました。
- 講座。ロールプレイ、ともに、とても学びの多い内容でした！みとりだけでなく、子供達の支援としても大切なテーマだと感じました。（患者サマや御家族、職員）今迄、ゲートキーパーとしての活動もしていきたいと講習会を受けていたので、つながった思いです。
- 自分自身が救われました。両親を亡くした経験が自分にとってネガティブなものでしたが、ポジティブなもの（支え）であると気付きました。私がやりたいことはこれだと希望になりました。ありがとうございました！
- 充実した2日間でした。苦しむ方のそばに行くのに足が遠のいていたけど、そばに行って支えになりたい、わかってあげたいと思うようになった。ありがとうございました。
- 人間の本質に取り組む研修はあまりないので、今後も継続していただきたい。皆、それぞれの課題が明確になって良かったと思います。
- 初めて受講して、死期が迫っている患者さんの対応に苦手意識があったのですが、2日間を通して今の私にもできることが多くあることに気づくことが出来ました。臨床で活かしていきたいと思います。
- 本当にありがとうございました。「伴走者」の存在を深いところに意識したいと思います。
- 毎年3,000円で沖縄で開催してほしいです。

否定的なコメント

- 病気になった事がないので患者になれなかったので暗記するしかなかく基本情報を（患者の）覚える事ができず、ロールプレイができなかった。研修された人はこの内容を理解できたと思うと、すごいなと思います。看取りを行ってきたのでもう少し考えたいと思います。